


陳 情 文 書 表

受 理 番 号	第 1 3 号	受 理 年 月 日	令 和 7 年 1 月 2 9 日
件 名	中野区立第七中学校校舎改築に伴う代替校舎への通学時バス運賃の補助を求める陳情について		
付 託 委 員 会	子ども文教委員会		
提 出 者			

(主 旨)

中野区立第七中学校校舎改築時の代替校舎となる旧上高田小学校へ通学する期間、子ども達の健康面、安全面を考慮してバス運賃の補助を求めます。

(理 由)

私たちは中野区に住む保護者として、現在の校舎改築に伴う移転が子どもたちに与える影響について、真剣に懸念しております。将来の中野区を担う大切な子どもたちが、現在の校舎地に通う世代と比べ、不利益を被ることなく健やかに成長できるよう、行政のご支援をお願い申し上げます。

(1) 近年の異常な夏の暑さと冬季の安全面

例年5月頃から9月末まで想像以上の酷暑が続いています。思春期は心身ともに不安定な時期であり、体力的限界が低く、特に女子に於いては月経期間の長距離移動は貧血のリスクが高まります。4時間授業で夕方からの部活がある場合の「一度帰宅してから再登校する」という決まりも極力避けるよう調整していただけるようですが、万が一再登校となった際の心身への負担は大きく、大人でも容易には対応できないのではないのでしょうか。

また、冬季の夕暮れは早く、慣れない地で夜道に不安を感じながら帰宅することになります。上高田地区では強盗事件や不審者の出現などが報告されており、不慣れた長距離通学をする子ども達が犯罪者や不審者のターゲットにされる可能性もあります。特に女子は不審者に対応する術が限られ、女子児童・生徒の保護者から多くの不安の声が上がっています。

(2) バス利用による安全の確保

学区が違うという事は生活圏が違うという事です。土地勘のない子が多く、また哲学堂公園から新井薬師前駅に向かう通りは比較的急な坂道で、且つ車道と歩道の区切りにガードレールがありません。旧上高田小学校までは土地柄入り組んだ道が多く、最短距離を選択すれば夜道は暗く、大通りを選択するとガードレールの無い狭い歩道のバス通りで危険を感じます。江原小学校、江古田小学校の子ども達は地域から手厚く見守られ、顔見知りの大人が多い環境で育ってきました。不慣れた土地での長距離通学となる為、突然の豪雨や猛暑、台風や大雪、そして具合が悪くなった際に電話等で助けを求めることもできず、何とか自分で歩

いて帰るしかない状況は中学生には酷すぎます。何かあってからでは手遅れです。その際、バスが心置きなく利用できる環境であれば、安心材料の一つとなると思います。

(3) 経済的負担の軽減と長距離通学のストレス

実費でのバス利用は可能ということですが、各家庭の経済状況は異なります。お金の問題はデリケートであり、子が親にバス運賃を要求しづらいご家庭もあります。友人間でバスを使えるか使えないかという差別的状況が生じることは容易に想像でき、それが故にいじめに発展する可能性もあります。

また、長距離通学が原因で学校に行く気持ちが出せず、不登校になる可能性も否定できません。行政側で通学時間を計り最長距離が2.2km、徒歩時間34分と聞いておりますが、それぞれのご家庭から安心して通学できる通学路を辿った場合は“遠回り”となり、通学時間はおのずと長くなることが予想されます。また、子どもたちの持つ荷物は概ね10kg以上の重さがあり、毎日これを背負って通学することはとても大きな負担です。

(4) 最後に

第七中学校改築推進委員会でも何度も声があがっていたり、保護者側からの強い要望でやっと昨年末に実現した行政からの説明会では、保護者からの質問に納得のいく説明や回答が得られず、説明会が開かれたにも関わらず保護者の不安が非常に高まってしまっている状態です。今回のように全員が学区外に通うことになる特殊なケースでは、代替校舎へ通うという寂しさ、知っている大人が少ない地域へ通学する心細さは、エリアを限定せず全員が同じ対象者です。不安な夜道を通ることなく、子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、町田市や渋谷区での交通費補助やスクールバス運行の事例を参考に、中野区でも同様の行政による最大限の配慮をお願い申し上げます。

現在、憶測を含め様々な不安材料から該当世代が第七中学校を敬遠する話が多く聞かれます。地元中学での友だちとの付き合いは特別です。地域の繋がりを維持するためにも学年生徒数の減少を防ぎ、地域の未来を支えるためのご支援を心よりお願い申し上げます。